

意向

国家間で一致が必要なこの時、ヨーロッパのために今日、祈りましょう。ヨーロッパがこの一致、欧州連合の創設者たちが夢見た兄弟愛の一致を祈りましょう。

その日の福音書(3、16-21)で、イエスはニコデモに言った、「神はその独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。」

説教

「ヨハネの福音書第3章、イエスとニコデモ間の対話は、真の神学的論文です。すべてがあります。ケリグマ、カテキシス、神学的考察、*parenese*...この章にはすべてがあります。

そしてそれを読むたびに、私たちはより多くの富、より多くの説明、神の啓示を理解させるより多くのことにアウトワシマス。それを何度も読んで、贖いの神秘に近づくのはいいことです。私は今日の個所にあるこれらすべてのうち、2つのポイントだけを取り上げます。

第一は神の愛の啓示です。神は私たちを愛しています。ある聖人が言うように、神の愛は狂気のようなものです。神は私たちを愛しています：「神は独り子をお与えになったほど世を愛された。」神は彼の息子を与え、神は彼の息子を送り、彼を十字架で死ぬように送りました。十字架を見るたびに、この愛が見つかります。

十字架はまさに神の愛の素晴らしい書物です。それはあちこちに置くオブジェクトではありません。さほど美しくなく、さほど古くなく、より現代的なオブジェクト...いいえ。それはまさに神の愛の表れです。神は私たちをこのように愛しておられました。彼は御子を遣わされ、その御子は愛のために十字架で死ぬまで自分を無にされました。神は世をとっても愛したので、彼の息子を与えました。

十字架を見るためにクリスチャンがどれほど時間を費やしているのか...そしてそこに彼らはすべてを見つけます。彼らは分かったからです。聖霊が分かせたのです。十字架には、科学のすべて、神の愛のすべて、キリスト教のすべての知恵があるということ。

パウロはそれについて話しています。人間の理性は、ある程度まで役に立ちますが、本当の理性、最も美しい考え方には及びません。すべてを説明するものはキリストの十字架です。人々の狂気によってイエスは十字架につけられましたが、この十字架につけられたキリストこそが道だと説明します。

そしてそれは神の愛です。神は独り子を与えるほど世をとっても愛しておられました。

そして、それはなぜですか？ 彼を信じる者は誰も滅びることなく、永遠の命を持つためにです。子どもたちと一緒にいたい父の愛です。

沈黙の中で十字架につけられたイエスを見て、傷を見て、イエスのみ心を見て、全体を見てください。神の子が愛によって無にされ、辱められています。これは、今日私たちに見せてくれるイエスとニコデモの対話である神学論の第一のポイントです。

第二のポイントも私たちを助けます：「光が世に来たのに、人々はその行いが悪いので、光よりも闇の方を好んだ。」イエスは光を放ちます。私たちもですが、闇闇に慣れているので、光の中で生きられない人々がいます。

光は彼らを眩惑し、彼らは見るできません。彼らは人間のコウモリです：彼らは夜にしか動くことができません。そして私たちも、罪の中にいるとき、この状態にあります。私たちは光を認めません。闇闇の中で暮らしたほうが快適です。光は私たちを叩き、私たちが見たくないものを私たちに見せます。

しかし、最悪なのは、どれだけ多くの人々の魂の目が闇闇の中で生きることに慣れ、光が何であるかを無視してしまうことです。闇闇に慣れると光の感覚がなくなります。そして、多くの人類のσκάνδαλ、多くの汚職が私たちにそれを示しています。

腐敗者は光が何であるかを知りません。私たちも、罪の状態、主から離れた状態にあるとき、盲目になり、闇闇の中の方が居心地がよくなり、盲人のように見えず、自分たちの思いのままにしまいます。

私たちを救うためにイエスを遣わした神の愛が私たちに入り、イエスがもたらす光、聖霊の光が私たちに入ります。その神の光で、物事を見るのを助けてもらいましょう。真の光です。闇闇の王が与える闇闇ではありません。

今日の二つのこと：キリストにおける、十字架につけられたキリストにおける神の愛。そして、日常的に、私たちは自分自身に問うことができます。「私は光の中を歩くのか、それとも闇闇の中を歩くのか？ 私は神の子だろうか、それとも、みじめなコウモリで終わるのか」

教皇は毎朝のように、聖体礼拝と聖体祝福でミサを終え、霊的な交わりを招きました。

教皇の霊的拝領者の祈り

「わたしのイエスよ、あなたは本当に祭壇の祝福された秘跡にいらっしゃると信じています。私は何よりもあなたを愛し、わたしの魂の中であなたを望んでいます。今、わたしはあなたを拝領することができないので、少なくとも霊的に私の心にお

入りください。私はもう来ましたので、あなたを抱擁し、すべてのものがあなたに加わります。あなたから離れることのないようにしてください。」

聖霊に捧げられた聖堂を離れる前に、復活説マリア様への賛歌、「レジーナチェリ」が歌われました。

「Regínacaeli laetáre, alleluia。
Quia quemmerúistiportáre, allelúia。
Resurréxit, sicut dixit, allelúia。
Ora pro nobis Deum, allelúia」。

**復活第2木曜日 教皇様お説教 サンタマルタ聖堂
23/04/2020**

意向

このコロナウィルスによって危機にある家族のために祈りましょう。そして高利貸の回心のために祈りましょう。

多くのところで、このパンデミックの影響が出てきています。多くの家庭が必要とするものに欠き、お腹をすかせ、不幸なことに、高利貸のグループが《助け》の手を彼らに差し伸べています。これは新たなパンデミックです。社会的なパンデミックです：日雇い・・・働けなくなっても子育てはしなければいけない。でも食べるものがない。そして高利貸がこの家族のなけなしの蓄えを奪っていくのです。祈りましょう。これらの家族のために、たくさんこのような家族の子どもたちのために、これら家族の尊厳のために祈りましょう。そして主が高利貸の心に触れ、回心しますように、高利貸のために祈りましょう。

説教

この使徒言行録（5章 27-33）のところで、ペトロは、人々の前で教えることを禁止したがっている大祭司の批判と脅迫を前にして、人間に従うよりも神に従わなければならないと答えます。皆の前で堂々と救い主であるキリストの復活を告げ知らせます。そのため、祭司長たちはペトロを殺そうと思いました。

弱い者であったペトロの勇気は、彼の信仰が弱まらないようにと彼のために祈ったイエスの祈りからきています。イエスはペトロのために祈りました。そしてイエスは私たちのためにも、贖いの代償である彼の傷を見せながら御父の前で祈っていらっしゃいます。イエスは執り成してくださいます：私たちは、私たち自身の祈りよりも、イエスの祈りにもっと信頼しなければなりません...

中略

イエスがペトロにしたことは、イエスは私たちにもなさいます。イエスは私たちのために、御父の前で祈ります。私たちはイエスにこの恵みを、私たちを助けてくれるこの恵みを下さるようにイエスに祈るのは慣れていています。しかし、御父に傷を見

せているイエスを観想することに、執り成し手であるイエスに、私たちのために祈っているイエスには慣れていません。イエスの祈りのお陰で、聖霊の賜物で、ペトロは卑怯ものから勇者へと変容することができました。

このことを考えましょう。イエスに立ち返りましょう。私たちのために祈って下さるイエスに感謝しながら。イエスは私たち一人ひとりに祈っておられます。イエスは執り成してください。イエスは御父が見られるように、傷をお体と共に持っていくことを望まれました。これが私たちの救いの代償です。

私たちはもっと信頼しなければなりません。私たちの祈りよりも、イエスの祈りに。「主よ、私のために祈って下さい。」「私は主である。あなたに与えることができる…」「そうです。でもどうかわたしのために祈って下さい。あなたは執り成しをして下さいます。」これがペトロの秘密です。「ペトロ、私はあなたの信仰が弱まらないようにあなたのために祈るでしょう。」
主が、教えて下さりますように。私たちのために祈って下さる恵みを願うことを。